【第１号議案】令和７（2025）年度 事業報告案

1. 概況

1. 展示事業

(1) 利用状況

2025 年度（令和 7 年度）は 3 本の企画展示を開催し、2,782 名（うち有料 1,933 名）【R6＝2,125 名（うち有料 1,324 名)】の来館者を迎えました。開館日は 252 日間。休館日は月曜日（祝休日を除く)、展示替え期間、年末年始、2026（令和 8）年 3 月 9 日から 31 日までの春季休館を含む 113 日間でした。

(2) 常設展示事業

受賞者コーナーは 2023（令和 5）年度から変更ありませんでした。相関図と個人紹介パネルのコーナーでは企画展示に併せて一部の個人紹介パネルと四コマ漫画を取り外すなど試みました。

(3) 企画展示事業

3 本の企画展示に加えて、2025 年 9 月 30 日から 11 月 3 日の会期で、新潟日報社所蔵の坂口安吾直筆手紙を展示しました。

2025（令和 7）年度事業計画案に未掲載ですが、2025 年 8 月 24 日から 9 月 28 日の会期で、新潟市生まれの時代小説家・火坂雅志氏の没後 10 年を記念した展示「愛と義のひと・火坂雅志 追悼ミニ展示」を開催しました。

①「岩田正巳―日本画の新境地を開く―」
2025（令和 7）年 4 月 1 日（火）～ 7 月 6 日（日） 84 日間
入館者数 1,150 名（うち有料 920 名）

②「戦後 80 年 捕虜になった記者・小柳胖」
2025（令和 7）年 7 月 29 日（火）～ 11 月 3 日（月･祝） 85 日間
入館者数 940 名（うち有料 542 名）
併催「愛と義のひと・火坂雅志 追悼ミニ展示」
2025（令和 7）年 8 月 24 日（日）～ 9 月 28 日（日） 31 日間
併催「坂口安吾と新潟日報」
2025（令和 7）年 9 月 30 日（火）～ 11 月 3 日（月･祝） 31 日間

③「弦巻松蔭と師・上田桑鳩―新潟市北区郷土博物館所蔵品より―」
2025（令和 7）年 11 月 26 日（水）～ 2026（令和 8）年 3 月 8 日（日） 83 日間
入館者数 692 名（うち有料 471 名）

これら企画展示で１０名の新潟県出身または所縁の文化人を紹介し、顕彰館や団体から貴重な資料をお借りして展示しました。（詳細は 3 ページから 7 ページまで）

2. ネットワーク協議会事業

(1) にいがた文化ネットワーク協議会

2025（令和 7）年度もマンパワー不足で協議会を開催できませんでした。しかし、館報へ掲載するために参加団体へのアンケートを送付して、「にいがた文化」第 11 号に掲載しました。

(2) 館報の発行

館報「にいがた文化」は、新潟県博物館協会（事務局：北方文化博物館）に加盟していない小さな顕

彰館や顕彰団体の事業や活動情報も掲載しています。新潟県博物館協会の「県博協ニュース」（毎年 4 月発行）を補完する役割を担っています。

(3) 県内文化施設・団体アンケート　※別紙参照

2025（令和 7）年度も県内の文化施設や団体へのアンケート調査を実施して館報「にいがた文化」11 号で紹介しました。

3. 教育普及事業

企画展示関連事業として､担当学芸員等による解説会を 9 回開催しました｡外部講師による講演会は、6 月に岩田正巳展監修者の横山秀樹氏による講演会「岩田正巳の制作について」を、10 月にはシンポジウム「『戦争とメディア』を考える―小柳胖資料から」を、3 月は新潟市北区郷土博物館の学芸員・神田直子氏と野中館長による 2 本立て講演会「書家･弦巻松蔭とその師･上田桑鳩を語る」を開催しました。

加えて、令和 7 年度の事業計画案に未掲載ですが、明和義人祭 2025 実行委員会主催で、新潟日報社と当館が共催したイベント「明和義人祭 2025 記念トーク『愛と義のひと・火坂雅志』」の関連展示「愛と義のひと・火坂雅志　追悼ミニ展示」（会期：令和 7 年 8 月 24 日～9 月 28 日）を開催しました。

令和 7 年度の企画展示関連事業の参加者総数は 290 名（前年度 491 名、前年比 59.0%）。内訳は作品解説会が 82 名（前年度 43 名、前年比 190.6%）、外部講師による講演会は 208 名（前年度 448 名、前年比 46.4%）でした。

中学生職場体験などの学校との連携事業及び学習対応は 2 校･団体のべ 5 名（前年度 4 校･団体のべ 14 名）、小中学校または高校などによる団体観覧（総合学習含む）は 8 校･団体のべ 61 名（前年度 11 校･団体、110 名、前年比 3 校減、対前年度比 55.4%）の来館がありました。

館外活動では、学芸員による新潟日報への寄稿が 1 本。講演会は学芸員による講座等が 2 回、のべ 66 名（前年度 43 名、前年比 153.4%）の参加がありました。最後に、平成 26（2015）年に他界した時代小説家火坂雅志氏の没後 10 年を記念して、明和義人祭実行委員会が主催し新潟日報社と当館が共催したイベント「明和義人祭 2025 記念トーク『愛と義のひと・火坂雅志』」を令和 7 年 8 月 24 日に開催し、100 名の参加がありました。

4. 調査及び研究･研修事業

令和 7 年度は他館との共同調査は行いませんでしたが、個人または団体からのレファレンス対応や取材対応を行いました。

当館で紹介している文化人についての講演会や勉強会に学芸員らが参加しました。当館での業務を踏まえて、にいがた市民大学運営委員会など外部委員をつとめています。

5. 収集・保存、資料貸出

令和 7 年度の寄贈受け入れはありませんでした。

6. 広報

平成 27 年度から一般財団法人新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビの 3 団体から助成または共催をいただき、企画展示の規模に合わせて広報しました。

2. 事業別報告

1. 展示事業

(1) 利用状況

開館日	休館日	入館者総数	うち有料	普及事業 参加者総数
252 日／365 日間	113 日／365 日間	２，７８２名	１，９３３名	２９０名 （担当学芸員による解説会および企画展示関連事業）

※2024（令和 6）年度実績：開館日 252 日間　入館者総数 2,125 名（うち有料 1,324 名）、普及事業参加者総数 491 名

(2) 常設展示

ｸｰﾙ	テーマ名	会期	開催日数	備考
1	企画展示の展示ケースとして使用[*1] ① 受章者　岩田正巳による小下絵などを展示 ② 医学　岩田正巳による小下絵、印章などを展示 ③ 中国学　岩田正巳作品の絵葉書を展示 ④ 美術　岩田正巳による小下絵、スケッチを展示 ⑤ 文学　岩田正巳による模写、版画などを展示	4 / 1 (火) ～ 7 / 6 (日)	84	＊１. 企画展示「岩田正巳―日本画の新境地を開く―」の関連展示
2	① 受章者　ドナルド・キーン（職場体験の中学生と展示計画を立てて書籍、直筆色紙などを展示） 以下、全体テーマ「日本の文化をになった新潟人・生没年グラフ」 ② 医学 ③ 新潟の女性 ④ 美術 ⑤ 文学	7 / 29 (火) ～ 11 / 3 (月･祝)	85	
3	企画展示の展示ケースとして使用[*2] ① 受章者　弦巻松蔭旧蔵の硯などを展示 ② 医学　弦巻松蔭旧蔵の文具などを展示 ③ 新潟の女性　上田桑鳩の手本を展示 ④ 美術　上田桑鳩による色紙を展示 ⑤ 文学　良寛関連書籍などを展示	11/ 26 (水) ～ 8/ 3 / 8 (日)	83	＊２. 企画展示「弦巻松蔭と師・上田桑鳩」の関連展示
通年	文化勲章（10 名）	4 / 1 (火) ～ 8 / 3 / 8 (日)	252	
	文化功労者（18 名）			
	人間国宝（5 名）			

(3) 企画展示

①「岩田正巳―日本画の新境地を開く―」

会　　期	2025（令和 7）年 4 月 1 日（火）～ 7 月 6 日（日）　84 日間 前期：4 月 1 日（火）～ 5 月 18 日（日）　42 日間 後期：5 月 20 日（火）～ 7 月 6 日（日）　42 日間
主　　催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日報社
共　　催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ
協 力 企 業	田村紙商事株式会社
監　　修	横山秀樹氏（美術評論家、元新潟市新津美術館長）
展 示 協 力	新潟市新津美術館、三条市歴史民俗産業資料館別館ほまれあ
趣　　旨	三条市に生まれた日本画家・岩田正巳（1893～1988 年）は歴史物語などを題材とする大和絵に、現代の息吹を取り入れて、日本画の新境地を開いた。

	旧制三条中学校から東京美術学校へ進み、卒業後は、大和絵の流れを汲む日本画家・松岡映丘に師事。有職故実に詳しく、映丘と共に「新興大和絵会」、「国画院」を立ち上げて、新しい歴史画の理想を追求した。戦後は中国、インドへとイメージを広げて、石仏などのシリーズを制作。モチーフも現代風の花鳥、風景、人物などを描き、気品の感じられる画風を確立した。 三条市名誉市民第1号に推挙された岩田正巳の画業を、小品を中心に紹介した。
紹介文化人	岩田正巳（三条市）
協力団体及び個人	監修および展示協力と同じ
展　　示	新潟市新津美術館や三条市、新潟日報社が所蔵する岩田正巳の作品を展示して紹介した。また、個人が所蔵する画集や小下絵、岩田正巳の展覧会出品作絵はがき（出品先：新興大和絵会、文展、帝展、日展、個展、画廊の展覧会など）も併せて展示した。
関連事業	① 監修者・横山秀樹氏による講演会「日本画家 岩田正巳の制作について」　参加者数：３５名 開催日：6月25日（水）　会場：新潟日報メディアシップ2階日報ホール 講師：横山秀樹氏（美術評論家、元新潟市新津美術館館長） ② 担当学芸員による解説会 全3回（3回とも別内容） 開催日：4月26日（土）、5月24日（土）、6月28日（土）　参加者総数：４６名 会場：当館　担当：石垣 雅美（4/26）、伊豆名 皓美（5/24、6/28）
広　　報	① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000部、ポスター（B2、片面カラー）400部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ② 新聞広告：新潟日報（20回掲載） ③ テレビCM：ＮＳＴ新潟総合テレビ ④ ラジオCM：ＢＳＮラジオ ⑤ ウェブサイト：当館、メディアシップ ⑥ 雑誌等：「月刊キャレル」、「カルチャーにいがた」
掲載記事または番組	無し
入館者数	１，１５０人（うち有料９２０人）　※7年度予算案作成時の目標人数＝1,300人（達成率＝88.5%）
総　　括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	○ 評価点 ・〔横山秀樹氏による監修と講演会の開催〕岩田正巳を直接知り、長年岩田正巳を含め日本近代美術史を研究している横山秀樹氏から監修していただき、また講演会を開催することができた。講演会では、豊富なスライド資料を交えながら岩田正巳の生涯をたどりつつその画業について講演された。また貴重な晩年のエピソードなども紹介された。参加者から、「とてもわかりやすかった」という感想が多く寄せられ、好評だった。 ・〔作品絵はがきをまとめて展示〕個人が所蔵する岩田正巳の展覧会出品作絵はがき（出品先：新興大和絵会、文展、帝展、日展、個展、画廊の展覧会など）を借用して展示した。同コレクションをまとめて展示するのは初めてとのこと。全作品目録がない岩田正巳の出品作を絵はがきで通覧できる、貴重な機会となった。 ■ 検討課題 ・本展における入場料収入およびイベント料収入は、目標額を下回る結果となった。今後は、より効果的な情報発信に努めることで、収益面の改善につなげていきたい。
担　　当	石垣　雅美、伊豆名　皓美

②「戦後80年　捕虜になった記者 小柳胖」

会　　期	2025（令和7）年7月29日（火）～ 11月3日（月･祝）　85日間
主　　催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日報社
共　　催	新潟日報美術振興財団、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	新潟日報社、日本新聞博物館、ＢＳＮ新潟放送
趣　　旨	新潟日報社の第四代社長・小柳胖（おやなぎ・ゆたか、1911～86年、新潟市生まれ）は太平洋戦争を機に数奇な人生を送った新聞人。 戦時中、小柳は編集局長として戦争推進に協力する新聞を制作したが、昭和19（1944）年2月に召集され戦地へ赴いた。太平洋戦争末期に硫黄島で米軍の捕虜となりハワイの捕虜収容所

	に移された。そこで小柳は、所長のオーテス・ケーリの下で捕虜仲間の記者等とともに対日宣伝ビラを作ることになる。その目的は戦争の早期終結だった。 終戦の翌年に復員した小柳は新潟日報に戻ると、捕虜体験を語ることなく、経営者として自社や業界の発展に尽力した。地域振興にも貢献し、晩年は會津八一記念館の設立運動の中心となり、初代館長を務めた。 戦後 80 年の今夏、“捕虜になった記者”小柳胖の旧蔵資料から、戦争とメディアについて考えるきっかけとしたい。
紹介文化人	小柳胖（新潟市）、坂口仁一郎（新潟市）、坂口献吉（新潟市）、坂口安吾（新潟市）、會津八一（新潟市）
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展　　示	新潟日報社が所蔵する小柳胖の書簡を軸に、太平洋戦争時の新潟日報複写パネルやＢＳＮ新潟放送制作の番組（ニュース番組用のダイジェスト版）、2014 年企画展示「終戦を促した祖国愛」で作成した相関図を添えて、小柳の足跡をたどる展示にした。
関連事業	① シンポジウム「『戦争とメディア』を考える―小柳胖資料から」　参加者数：９０名 開催日：10 月 11 日（土）　会場：新潟日報メディアシップ 2 階日報ホール 登壇者：土屋礼子氏（早稲田大学政治経済学術院教授）、工藤路江氏（日本新聞博物館学芸員）、吉井一善氏（BSN 新潟放送報道制作局次長）、森沢真理氏（新潟日報社特別論説編集委員） ② 担当学芸員による解説会　全 3 回（3 回ともほぼ同じ内容）　参加者総数：１９名 開催日：8 月 23 日（土）、9 月 27 日（土）、10 月 25 日（土） 会場：当館　担当：石垣 雅美
広　　報	① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000 部、ポスター（B2、片面カラー）400 部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ② 新聞広告：新潟日報（12 回掲載） ③ ラジオ CM：ＢＳＮラジオ ④ ウェブサイト：当館、メディアシップ ⑤ 雑誌等：「月刊キャレル」、「カルチャーにいがた」
掲載記事または番組	8 月 11 日（月）　新潟日報 11 面　「捕虜になった記者 思い触れ　にいがた文化の記憶館　書簡や新聞記事展示」（企画展示の取材記事） 8 月 31 日（日）　新潟日報 1 面　日報抄 9 月 26 日（金）　新潟日報 10 面　文化「『戦争とメディア』を考える　来月 11 日、新潟でシンポ」（関連事業の案内記事） 10 月 13 日（月）新潟日報 15 面　「戦争とメディアを考える　『捕虜になった記者』小柳氏体験巡りシンポ」（関連事業の取材記事）
入館者数	９４０名（うち有料５４２名）　※7 年度予算案作成時の目標人数＝1,200 人（達成率＝78.3%）
総　　括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	○ 評価点 ・〔展示〕戦後 80 年の節目の年に、新潟日報社第 4 代社長の小柳胖旧蔵の資料をお借りして、これまで新潟日報紙面と新潟県立歴史博物館の企画展（2020 年）、ドナルド・キーン・センター柏崎の企画展（2021 年、2023 年）でしか紹介されていなかった小柳胖旧蔵資料を展示することが出来た。 ・〔関連事業〕小柳胖が太平洋戦争末期に携わった対日宣伝ビラ（伝単）について、報道関係者や専門家をお招きしてシンポジウムを開催できた。登壇者の報告やディスカッションを通じて、ほとんど知られていない小柳胖が体験したことや宣伝ビラについて、紹介することが出来た。 ■ 検討課題 ・展示担当の仕事が遅く、関係者にご迷惑をおかけした。業務の分担など、早めに相談できるようにしたい。
担　　当	石垣　雅美

③「書家・弦巻松蔭 没後 30 年記念・生誕 120 年記念　弦巻松蔭と師・上田桑鳩―新潟市北区郷土博物館所蔵品より―」

会　　期	2025（令和 7）年 11 月 26 日（水）～ 2026（令和 8）年 3 月 8 日（日）　83 日間
主　　催	にいがた文化の記憶館、新潟県、新潟日報社
共　　催	新潟日報美術振興財団、BSN 新潟放送、NST 新潟総合テレビ
協力企業	田村紙商事株式会社
展示協力	新潟市北区郷土博物館
趣　　旨	本展は、弦巻松蔭の没後 30 年（2025 年）および生誕 120 年（2026 年）を記念して開催したものである。また、長年にわたり書作品および関連資料を収集・保存してきた新潟市北区郷土博物館の活動を紹介する機会ともなった。 新潟市北区郷土博物館は、書家・弦巻松蔭（1906-1995、新潟市生まれ、新発田市ゆかり）と、その師である上田桑鳩（1899-1968、兵庫県生まれ）の作品および関連資料を所蔵している。本展では、それらの中から厳選した作品と資料を展示した。 弦巻松蔭は戦前に上京して上田桑鳩に師事し、戦後は郷里を拠点に活動した。雄渾な線による書風と、創作の厳しさと喜びを伝える指導により、新潟の書文化の振興に尽力した人物である。 一方、上田桑鳩は戦後の書の新時代を切り拓いた先駆的な書家であり、西洋の芸術論を取り入れ、書を「一人の人間による創造的営み」として位置づけた。この思想は弟子である弦巻松蔭によって新潟にもたらされ、新潟の書文化に新たな視座を与えた。 展示では、松蔭が師の影響を受けて収集した文房具コレクションの一部も紹介し、書をめぐる文化の広がりとともに、資料を収集・保存してきた新潟市北区郷土博物館の活動にも触れていただける内容とした。
紹介文化人	［県内］弦巻松蔭（新潟市〔新発田市〕）、良寛（出雲崎町） ［県外］上田桑鳩（兵庫県）
協力団体及び個人	展示協力と同じ
展　　示	新潟市北区郷土博物館が所蔵する弦巻松蔭の書作品と文房具、ならびに松蔭の師・上田桑鳩の作品を中心に展示した。松蔭と桑鳩の代表的な書作品に加え、臨書資料や色紙、松蔭旧蔵の法帖・良寛遺墨集・文房具など、書の創作過程や背景を示す資料も紹介した。
関連事業	① 2 本立て講演会「書家・弦巻松蔭とその師・上田桑鳩を語る」　参加者数：８３名 開催日：3 月 1 日（日）　会場：新潟日報メディアシップ 2 階日報ホール 講師：神田直子氏（元新潟市美術館／元新潟市北区郷土博物館 学芸員）、野中吟雪（当館館長・新潟大学名誉教授） ② 担当学芸員による解説会　全 3 回（3 回とも同じ内容）　参加者総数：１９名 開催日：12 月 20 日（土）、1 月 24 日（土）、2 月 21 日（土） 会場：当館　担当：伊豆名 皓美
広　　報	① チラシ（A4、両面カラー、割引券付）10,000 部、ポスター（B2、片面カラー）400 部（県内顕彰施設や図書館などに発送） ② 新聞広告：新潟日報（5 回掲載） ③ ラジオ CM：ＢＳＮラジオ ④ ウェブサイト：当館、メディアシップ ⑤ 雑誌等：「月刊キャレル」、「カルチャーにいがた」
掲載記事または番組	1 月 30 日（金）　新潟日報朝刊 20 面　展覧会へようこそ「本県書文化の礎を築く」
入館者数	６９２人（うち有料４７１人）　※7 年度予算案作成時の目標人数＝1,000 人（達成率＝69.2%）
総　　括 （展示全般および地域への関わりと効果など）	○ 評価点 ・〔展示内容の充実と理解促進〕弦巻松蔭と上田桑鳩の作品および関連資料を体系的に紹介したことで、両者の関係性や書に対する思想を理解できたという声が多く寄せられた。文房具コレクションや臨書資料など、創作の背景に触れられる展示は特に好評であった。 ・〔講演会の高い満足度〕講演会では、講師による丁寧で分かりやすい解説が好評で、「大変勉強になった」「良い講演だった」といった感想が多かった。弦巻松蔭と上田桑鳩の思想や書風の背景を深く理解できたという声が目立ち、展示と講演会が相互に補完し合う効果が見られた。 ・〔地域との結びつきとリピーターの多さ〕講演会のアンケートでは「以前にも展示を見たことがある」という回答が多く、にいがた文化の記憶館の展示が地域に浸透していることが確認できた。また、松蔭ゆかりの新発田市や新潟市北区からの来場も多く、地域文化への関心の高さ

	がうかがえた。 ・〔書文化への関心喚起〕展示や講演を通じて、「桑鳩の著作を読んでみたい」など、書文化への関心が高まったという声が複数寄せられた。書家の思想や背景に触れる機会を提供できた点は、本展の大きな成果である。 ■ 検討課題 ・書作品に馴染みのない来場者に向けて、作品背景や読み方の説明をさらに充実させるなど、展示解説を工夫したい。
担　　当	伊豆名　皓美

2. ネットワーク協議会事業

事業名	内容
(1) 館報の発行	誌面名：「にいがた文化」第 11 号 発行：2026（令和 8）年 3 月　　仕様：16 ページ、A4、カラー印刷 内容：表紙　弦巻松蔭《人生堂々》（新潟市北区郷土博物館蔵） P10～16 新潟県内の文化人顕彰施設・団体からの PR 情報（ネットワーク館） 発行部数：4,000 部（無料頒布）　　頒布先：県内文化施設、図書館、学校等

3. 教育普及事業

(1) 担当学芸員による解説会（参加者総数：８２名）　　※2024（令和 6）年度実績：43 名

事業名	開催日	内容	参加人数
企画展示関連 解説会「岩田正巳―日本画の新境地を開く―」	4 / 26 (土)	担当：石垣 雅美	14 名
	5 / 24 (土)	担当：伊豆名 皓美	15 名
	6 / 28 (土)	担当：伊豆名 皓美	17 名
企画展示関連 解説会「戦後 80 年　捕虜になった記者・小柳胖」	8 / 23 (土)	担当：石垣 雅美	7 名
	9 / 27 (土)	担当：石垣 雅美	7 名
	10 / 25 (土)	担当：石垣 雅美	5 名
企画展示関連 解説会「弦巻松蔭と師 上田桑鳩―新潟市北区郷土博物館所蔵品より―」	12 / 20 (土)	担当：伊豆名 皓美	5 名
	1 / 24 (土)	担当：伊豆名 皓美	3 名
	2 / 21 (土)	担当：伊豆名 皓美	9 名

(2) 企画展示関連講演会（参加者総数：２０８名）　　※2024（令和 6）年度実績：448 名

事業名	開催日	内容	参加者数
講演会「日本画家 岩田正巳の制作について」	6 / 25 (水)	講師：横山秀樹氏（美術評論家、元新潟市新津美術館館長） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール	35 名
シンポジウム「『戦争とメディア』を考える―小柳胖資料から」	10 / 11 (土)	登壇者：土屋礼子氏（早稲田大学政治経済学術院教授）、工藤路江氏（日本新聞博物館学芸員）、吉井一善氏（BSN 新潟放送報道制作局次長）、森沢真理氏（新潟日報社特別論説編集委員） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール	90 名
2 本立て講演会「書家・弦巻松蔭とその師・上田桑鳩を語る」	3 / 1 (日)	講師：神田直子氏（元新潟市美術館学芸員、元新潟市北区郷土博物館学芸員）、野中吟雪（当館館長・新潟市會津八一記念館館長・新潟大学名誉教授） 会場：メディアシップ 2 階 日報ホール	83 名

(3) 学校との連携事業及び学習対応（参加者総数：５名）　　※2024（令和 6）年度は 14 名

事業名・学校名	期間	内容
職場体験 新潟市立鳥屋野中学校 2 年生 2 名	7 月 2 日(水) ～ 7 月 3 日(木)	担当：高岡事務局長、石垣学芸員 内容：館運営にかかる受付業務や広報業務などを体験
職場体験 新潟市立上山中学校 2 年生 3 名	9 月 17 日(水)～ 9 月 18 日(木)	担当：高岡事務局長、石垣学芸員 内容：館運営にかかる受付業務や広報業務などを体験

※2025 年度に来館した小中学校数及び生徒数：８校、６１名（2024 年度：11 校、110 名）

(4) 館外での活動（執筆、講座、講演会など）

■　執筆活動

タイトル・掲載時期	掲載日	内容	執筆者
新潟日報「展覧会へようこそ」 「本県書文化の礎を築く」	1 / 30 (金)	企画展示「弦巻松蔭と師 上田桑鳩―新潟市北区郷土博物館所蔵品より―」を紹介	伊豆名 皓美

■　講座、講演会など（参加者総数：１６６名）　　※2024（令和 6）年度は 43 名

事業名	開催日	内容	参加者数
亀田福寿大学主催 亀田福寿大学探訪部授業「諸橋轍次と『大漢和辞典』／辞典を編さんした新潟人」	5 / 14 (水)	担当：伊豆名皓美学芸員 会場：亀田地区コミュニティーセンター2 階会議室	46 名
明和義人祭 2025 実行委員会、新潟日報社との共催 明和義人祭 2025 記念トーク「愛と義のひと・火坂雅志」	8 / 24 (日)	登壇者：中川洋子氏（故火坂雅志氏夫人）、矢沢寛氏（故火坂雅志氏小学館担当編集者） 進行：石原亜矢子氏（新潟日報社論説編集委員） 会場：新潟日報メディアシップ 1 階みなと広場 ※当館は申し込み受付などを担当	100 名
ゆいぽーと（新潟市芸術創造村・国際青少年センター）主催 二葉アーツスクール 2025「めだかの学校」Season8 第 2 回「新潟市生まれの日本画家　尾竹三兄弟―越堂・竹坡・国観―」	10 / 4 (土)	担当：中島榮一氏（元新潟市潟東樋口記念美術館学芸員）、石垣雅美学芸員 会場：ゆいぽーと（新潟市芸術創造村・国際青少年センター）	20 名

4. 調査及び研究・研修事業

■　調査

新潟日報社所蔵資料（小柳胖旧蔵）や紹介文化人等のレファレンス対応　担当：学芸員（随時）

■　研修

当館紹介文化人に関連する講演会や勉強会に学芸員らが参加。

■　その他

にいがた市民大学運営委員会　担当：石垣雅美学芸員（任期：2024 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

5. 収集・保存、資料貸出

■　資料の寄贈受入

2025（令和 7）年度の受け入れ無し

6. 広報

① 新聞掲載記事一覧（企画展示関連記事をのぞく）

掲載紙名	掲載日	見出し	執筆者等
新潟日報	4 / 8 (火) ~ 3 / 15 (日)	［広告］にいがた偉人かるた（半 5 段広告）	—
新潟日報	7 / 28 (月)	［新潟日報主催事業のご案内］明和義人祭記念トーク 愛と義のひと・火坂雅志　8 月 24 日、メディアシップ	—
新潟日報	8 / 1 (金)	夫・火坂雅志さんを追悼　24 日、新潟 中川洋子さん講演	—
新潟日報	8 / 31 (日)	火坂作品の「義」　妻洋子さん解説　新潟中央区	—
新潟日報	9 / 23 (火・祝)	「良寛会」が精算金を「にいがた文化の記憶館」に寄付	—
新潟日報	10 / 21 (火)	［読者投稿欄］変貌した集落に古き重ね（鷲尾雨工）	—
新潟日報	12 / 21 (日)	神林恒道さん死去、87 歳　八一の顕彰活動に尽力「郷土愛にあふれた人」	—
新潟日報	12 / 25 (木)	［文化欄］神林恒道さんを悼む　地域文化振興に力、講演重ね	武藤斌 會津八一記念館 元事務長 （当館顧問）
新潟日報	12 / 26 (金)	［広告］「にいがた文化の記憶館」2025 年度 維持会員・パスポート会員の皆様 ご支援感謝致します	—
聖教新聞	1 / 15 (木)	［企画記事］えちごミュージアム探訪第 19 回　にいがた文化の記憶館	—

3. 事業別評価

事業名		評価点（〇）	改善点（▲）・今後の課題（■）
展　示	常設展示（相関図）	〇 第 1 および第 3 クールでは企画展示の展示ケースとして小下絵やスケッチ、文房具などを展示した。	■ 設立時の県内顕彰施設及び団体などへの展示支援（出張展示）など、当館の展示計画を再検討する必要があると思われる。
	企画展示	〇 これまで展示されたことのない資料を調査して展示、紹介できた。	
ネットワーク協議会	協議会		■ マンパワー不足で協議会準備が出来ずに未開催となった。
	顕彰施設及び団体との連携		■ 近年、協議会が開催できていないことから、顕彰施設及び団体との連携について改めて検討し、どのような連携が取れるのか探ることが必要だと考える。
	館報	〇 R7 年度に開催したイベントを紙上再録できた。加えて、編集中に開催された企画展示については、紹介文を掲載するなど、全 3 本の報告に努めた。 〇 県博物館協会に加盟していない団体等の情報を掲載することで、広く告知できた。	■ R4 年度から同じく 16 ページ構成とした。原材料費高騰により、発行部数を予定していた 5 千部から 4 千部に減らした。WEB サイトや SNS など各媒体での発信も加えた効果的な広報を検討したい。
教　育	イベント、	〇 過去の企画展示情報から講演依頼があ	

普　及	講演･解説	り登壇した。	
	副読本・偉人かるた		■ 以前からの課題だが、副読本活用のための仕組みづくりと､偉人かるたの PR について見直したい。 ■ 副読本用似顔絵パンフレットの PDF データでの配布を検討していたが、当館 WEB サイトへのダウンロードページ作成が進まなかった。
調　査　・　研　究		○ 基本とする文化人データを調査、蓄積している。 ○ 企画展示の準備や照会依頼により、文化人の調査を進めている。 ○ 他館学芸員や郷土史家との意見交換等を行っている。	
人物選定委員会		○ 新たな人物に関する資料の収集を続けている。	
広　報		○ 不定期ではあるが､職員による SNS での発信を続けている。	▲ R6 年度からの課題であるチラシやポスター等の紙媒体での発信を見直して、自治体教育委員会や年間パスポート会員、維持会員など宛ての企画展示案内を封書からハガキに差し替えた。

【参考資料】◇主な来館者（来館順に掲載）

個人・団体（行政・企業等）	〔4 月〕横山秀樹学芸顧問、新潟日報社出版企画部･増山氏、秋艸会･渡辺淳子氏、會津八一記念館･喜嶋奈津代学芸員、國學院大學･山本哲也教授、新潟日報社読者局･石原亜矢子局総務、(一社)大学女性協会･大渕智絵氏、會津八一記念館･水本裕之事務長、新潟日報社新人研修 11 名、竹石松次元理事、三条市･滝沢亮市長、同市秘書課 2 名、小田敏三理事長、武藤斌顧問 〔5 月〕新潟県立近代美術館･長嶋圭哉学芸員、元新潟県立文書館副館長･本井晴信氏、横山秀樹学芸顧問、古塩充元評議員、捧実穂理事、尖閣湾揚島遊園リゾート 2 名、新潟日報社･古川雅江氏、同社･小川氏、橋本博文評議員、新潟絵屋･田代氏、會津八一記念館・喜嶋学芸員、三条市歴史民俗産業資料館別館ほまれあ･早川裕巳学芸員、長谷川義明前理事長、ヴィアックス安藤館長他 2 名 〔6 月〕三条市歴史民俗産業資料館別館ほまれあ･長谷部原学芸員、横山秀樹学芸顧問、新潟市海洋河川文化財団･長浜裕子専務理事、新潟日報社･高津直子デスク、鎚起作家･西片正氏、ジョイフルタウン･堀川直人氏、BSN 新潟放送･吉井一善報道制作局次長 〔7 月〕武藤斌顧問、元新潟市潟東樋口記念美術館館長･中島榮一氏、新潟日報生成 Ai 研究所･鶴間尚社長、新潟大学･角田勝久教授、新潟日報社出版企画部･増山氏、元新潟市北区郷土博物館学芸員･神田直子氏、美術史研究家･山浦健夫氏、新潟日報社･石山真常務取締役 CMO、同社･森澤真理特別論説編集委員、小田敏三理事長 〔8 月〕上越市教育委員会･早川義裕教育長、新潟日報社･古川雅江氏、巻菱湖記念時代館･磯島瑛俊顧問、新潟日報生成 Ai 研究所･鶴間尚社長、同所･小原広紀副所長、徳島新聞社 3 名、島田好久副理事長、新潟市會津八一記念館･水本裕之事務長、平山育男評議員、秋艸会･渡辺氏、會津八一記念館･喜嶋学芸員、同館･外山氏、新潟日報社･大塚編集局長、BSN 新潟放送･島田譲報道制作局長、同社･吉井一善報道制作局次長、新潟市文化政策課･宮島係長とインターン 2 名、新潟日報社･森澤真理特別論説編集委員、同社･斎藤祐介監査役、武藤斌顧問、竹石松次元理事、中川洋子氏、新潟日報社読者局･石原亜矢子局総務、青春出版社･手島智子編集長、アイ・シー・オー･小平勝志代表取締役、同社･富田秀雄事業推進部長 〔9 月〕武藤斌顧問、新潟日報社･星氏、同社･田村氏、同社･馬場幸夫常務取締役、小原清文評議員、日本新聞博物館･工藤路江学芸員、横山秀樹学芸顧問、(一財)良寛会･長谷川義明理事長、同会･小林鉄夫事務局長、小田敏三理事長、新潟日報社･記者 2 名（取材）、新潟日報社読者局･石原亜矢子局総務、同社･今井美穂ふれあい事業部長、同社出版企画部･増山氏、敬和学園大学名誉教授･北嶋藤郷氏、橋本博文評議員、新潟日報社･林氏、秋艸会･渡辺氏、グリーン産業･松田暢夫氏 〔10 月〕新宣･佐野由香利会長、小湊潤評議員、秋艸会･山田修事務局長、渡辺英美子元評議員、新潟日報社･関根氏、早稲田大学政治経済学術院･土屋礼子教授、日本新聞博物館･工藤路江学芸員、新潟日報社･森澤真理特別論説編集委員、同社･五十嵐美佐デスク、新潟市芸術文化振興財団･徳永健一理事長、生活ニュースコモンズ・阿久沢悦子記者（取材）、新潟日報社出版企画部･増山氏、元新潟市潟東樋口記念美術館館長･中島榮一氏、平山征夫元評議員 〔11 月〕武藤斌顧問、會津八一記念館･外山氏、同館･喜嶋学芸員、秋艸会･渡辺氏 〔12 月〕會津八一記念館･喜嶋学芸員、新潟市北区郷土博物館･大森慎子学芸員、平出修の会･折笠正弘事務局長、鈴木浩行評議員、竹石松次元理事 〔1 月〕聖教新聞･佐藤記者（取材）、新潟日報生成 Ai 研究所･鶴間尚社長、新潟グランドホテル･伊藤氏、新潟日報社･高津直子デスク、捧実穂理事 〔2 月〕東海学園大学人文学部･加藤孝男教授、武藤斌顧問、長岡市立科学博物館･田中洋史総括副主幹、新潟日報社･阿部圭子氏、竹石松次元理事 〔3 月〕元新潟県立文書館副館長･本井晴信氏、新潟大学･角田勝久教授、元新潟市北区郷土博物館学芸員･神田直子氏
ご 遺 族	〔6 月〕関屋俊彦ご遺族 2 名 〔8~10 月〕小柳胖ご遺族 6 名 計 8 名
団体観覧（一般）	〔5 月〕（一社）大学女性協会 39 名、なかまの会（亀田の団体）15 名、新潟日報カルチャースクール美術史講座 14 名 〔11 月〕全国大学書道学会 18 名 計 4 団体（86 名）

団体観覧（学校） ※引率者を含む ※太字は前年度以前から継続して見学している学校	〔5 月〕**新潟市立巻西中学校** 2 年生 11 名、**新潟市立曽野木中学校** 2 年生 5 名 〔7 月〕新潟市立五十嵐中学校 2 年生 5 名、**新潟市立鳥屋野中学校** 2 年生 2 名（職場体験）、**新潟市立鳥屋野中学校** 2 年生 5 名 〔9 月〕新潟市立上山中学校 2 年生 3 名（職場体験） 〔10 月〕新潟市立新津第五中学校 3 名、新潟市立新津第二中学校 1 年生 12 名 〔12 月〕新潟高校書道部 14 名＋引率 1 名 計 8 校・団体（6 1 名） ※ 2024（令和 6）年度＝計 13 校・団体（204 名）

4. 財団運営業務

1. 会議の開催状況

(1) 評議員会

	開催日・会場	主な議事
第１回 （定時）	令和７年５月27日 新潟日報メディアシップ18階	［議事］ １．2024（令和６）年度 事業報告案の件 ２．2024（令和６）年度 決算案の件（監査報告） ３．辞任に伴う評議員選任案の件
第２回 （定時）	令和８年３月24日 新潟日報メディアシップ14階	［議事］ １．2026（令和８）年度 事業計画案の件 ２．2026（令和８）年度 予算案の件 ［報告･連絡］ １．2026（令和８）年度第１回理事会の開催時期について

(2) 理事会

	開催日・会場	主な議事
第１回 （定時）	令和７年５月９日 新潟日報メディアシップ18階	［議事］ １．2024（令和６）年度 事業報告案の件 ２．2024（令和６）年度 決算案の件（監査報告） ３．辞任に伴う評議員選任案の件
第２回 （定時）	令和８年３月24日 新潟日報メディアシップ14階	［議事］ １．2026（令和８）年度 事業計画案の件 ２．2026（令和８）年度 予算案の件 ［報告･連絡］ １．2026（令和８）年度第１回評議員会の開催時期について

2. 組織

(1) 役員等の人数（令和８年３月31日現在）

評議員	１３名	令和６年５月28日から現体制
理　事	１０名	理事内訳（代表理事２名、館長理事１名、常務理事･事務局長１名、理事６名）
監　事	１名	

(2) 職員数（令和８年３月31日現在）

館長	事務局長	職員	計
１名	１名	２名	４名

※ 顧問１名、学芸顧問１名

(3) 組織図（令和８年３月31日現在）